




令和6年度 三本松市民センター

# 川柳入選句

川柳宮城野社

仁多見 千絵 選



## 選者総評

川柳を楽しんでくださる方がたくさんいて嬉しく思いました。五七五のリズムで心の中にある思いを詠むのが川柳です。お子さんやお孫さんと交換日記のように毎日心の中を伝え合うのも楽しいと思います。家の中での会話も笑顔も増えるのではないのでしょうか。ぜひチャレンジしてください。

三本松市民センターで、松柳会という川柳を楽しんでいるサークルがあります。少しのアドバイスでぐんと上手くなりますよ。興味のある方はぜひ一度覗いてみてください。お待ちしております。



# 課題『開く』

## ★佳作

新しい時代が開くしんしへい新紙幣

テヌキババ

空き家にも季節が巡り花が咲く

佐藤 武

朝一は折り込みチラシチェックから

ペン

交差点色とりどりの傘開く

グリーン

ご朱印帳開いて旅をなつかしむ

ノンタン

## ★特選

特選3 スマホ持ちどころでもドアの一人旅

弘子

地図を片手に歩いた日も懐かしい思い出の一つ。  
しかし今はスマホがあれば怖いものなし。一人でも  
安心して旅を楽しめるいい時代になりましたね。

特選2 胸躍る飛び出す絵本めくるとき

イーロン

飛び出す絵本を初めて見た時、びっくりしてすごい絵本ができたなあと感じたことを覚えています。子どもも大人でさえも、わくわくドキドキ楽しめる絵本、最高ですね。

特選1 新しい扉を開けていく余生

深谷 京

なんと前向きな句でしょう。元気いっぱい作者。未知のものへの好奇心が若々しさを保つ心のエネルギー。新しい扉の一つに川柳があると嬉しいです。

# 課題 『写真』

★佳作

自撮りするピンボケ写真で皺かくす

小野寺 彰

いつまでも笑顔を願うレンズ越し

雪だるま

喜寿過ぎも父母の遺影に励まされ

阿部 良一

横顔が母そっくりに写ってる

ポプラ

折々の二人の写真宝物

みっちゃん



特選

特選3 感動を写真が語るパリ五輪

庄司 芳次

パリ五輪の選手の活躍で感動や勇気をもらった人も多いと思います。写真はその思いをいつまでも残すことができる優れものです。今でなければ詠めない句です。

特選2 幸せを願ってパチリ愛娘

きいふうー

親は子のすこやかな成長を願い、時折々にシャッターを切ります。どの親も思いは同じ。今はスマホがあるので、チャンス逃がすことは少ないですね。「パチリ」が効いています。

特選1 お年頃遺影の準備せかされる

南 雅子

私は今年の夏母を見送りました。弟が選んでくれた母の遺影はにこやかに笑っているとてもいい写真でした。私もそろそろ用意しなくては・・・と思っているところでした。暗くなることなく、「お年頃」という表現が素敵。

# 課題『自由吟』

★佳作

十七音喜怒哀楽を生き甲斐に

渡邊 清

宝くじ見果てぬ夢を追い求め

ポン

夏バテが通り過ぎてく食いつぶり

ピースケ

「おいしいね」あなたと分けるままだおる

さっちゃん

絵本から一生分のサプリメント

慶子



特選

特選3 風船は空に飛んでくお月さま

やどかり

ヘリウムガスを入れた風船はふわふわと浮き、うっかり風船に付いている糸を放すと空高く上がっていつてしまいます。その姿がお月さまのように見えたのでしようか。赤や青のお月さまがあったら、ちよつと夜が楽しくなりますね。

特選2 ラムネ玉振れば昭和の音がする

ずぼらや

プラスチックの入れ物ではなく、ガラスの瓶に入り、栓を抜くと中のビー玉がカランコロンと音がする、そんなラムネは昭和生まれには懐かしいもの。子どもの頃の夏の思い出の一つ。「昭和の音」という表現がいい。

特選1 八十路すぎ急に体が反抗期

加藤 悦子

年を取ると体は自分が思うようには動かなくなります。頭や心ではまだまだ若いと自信をもっているのに……。老いたと言わずに「反抗期」という表現が面白い。

 市民センター賞（三本松市民センター職員選）

『開く』

六県の楽しみ一杯絆祭り

まるき

物価高財布開いてガツカリだ

堤の風

『写真』

黒縁の白髪が増えない母の顔

いっこ

レントゲン腹黒までも写し出し

鈴木 邦雄

『自由吟』

空撮のたこ入道のわが緑地

あずき雑煮

二輪草金婚式の卓の端

荒井 浩